

第3学年A組 国語科学習指導案

授業者
研究協力者
教材分析協力者

工藤 優花
成田 雅樹、高橋 菜由
岡 英里奈

1 単元名 自分だけの句集をつくろう～春夏秋冬のくらしから～

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

「春風をたどって」の学習では、直接的に感情を書き表している言葉だけではなく、人物の行動や風景を表す叙述など様々な角度から登場人物の気持ちを読み取ることができることに気付き、その後の物語の続き話を書く活動でその気付きを生かす姿が見られた。「作品のよいところはどんどん真似をして自分に取り入れたい」「みんなが読んで楽しいと思ってもらえるように書きたい」という意欲の高い子どもたちである。

一方で、話し合い活動では、自分の考えを一方的に伝えてしまったり、相手の考えをよく聞かずに否定してしまったりする子どもが多く、なかなか話し合いが成立しないのが現状である。普段の生活の中でも、友達を強い言葉で否定してトラブルになる様子も見受けられる。これは、自分の思いが強いあまり、相手の気持ちを受け取ろうとしないことが原因と考えられる。

「春のくらし」の学習では、俳句にはじめて出会い、五・七・五の十七音に自分の言いたいことを収める難しさを実感していた。また、春・夏と継続して行った句会を通して、「リズムのよさ」や「一瞬のことを表す」など子どもたちなりの「よい俳句の条件」を見つけることができ、今後の自分の作品の参考にしようという意欲を高めている状態である。

(2) 単元について

本単元では、オリジナルの句集を作ることが単元のゴールとなる。俳句は、十七音という短い言葉で、身の回りの出来事や感情を表現しなければならないため、表現力を豊かにするために適した教材であるといえる。文学的な表現のよさに気付き始め、自分でも使ってみようという意欲にあふれている子どもたちに適していると考えた。また、句集として他の子どもの作品から自分のお気に入りの句を貯めていくことで、様々な表現や季節の感じ方に繰り返し触れることができ、より豊かな言語感覚が身に付けられるのではないかと思い、この単元を設定した。身近なモデルとして今後の参考にするためにオリジナル句集は有効であると考えた。

単元中盤に行く句会では、子どもたちが進んで学びに向かいながら言葉の力を高めることができると考える。句会とは、作者名を伏せた状態で自作以外の気に入った俳句に投票し、意見交換をする会である。友達の作った様々な俳句に触れることで、たくさんの表現を学ぶことができ、自分の俳句を向上させるヒントが得られると考える。自分の俳句を友達がどのように感じたのかを聞くことができると、表現を更によりよいものにしようという意欲につながるのではないか。また、誰が詠んだ俳句かを明かさず、自作の俳句を選ばないというルールがあることによって、自分の句や友達関係にとらわれすぎることなく、よいと感じた俳句を素直に評価できると考える。

単元を通して、句会をくり返し、句集を作成することで、子どもたちそれぞれがよい俳句とは何かを考えたり、様々な表現を身に付けたりすることを期待して、この単元を設定した。

(3) 指導について

本単元では、表現を吟味して俳句を詠んだり、使われている表現から想像を膨らませて俳句を味わったりするという資質・能力を高めることを目指す。

授業デザインの具体的な取組一つ目・三つ目との関連から、句会では俳句に順位を付けることとする。「自分の俳句が選ばれてほしい」「自分が選んだ俳句を1位にしたい」という気持ちが働くことで、より表現を吟味したり、豊かに俳句を味わったりすることができると考えた。また、自分が選んだ俳句のよさを認めてもらうためには、他の俳句にはないその句だけのよさをアピールする必要があるため、他の俳句を選んだ友達の話をよく聞くこともできるのではないか。そして、句会の最後には、最終的に自分が気に入った俳句を選ぶ場を設定し、句会を通して自分の考えがどのように深まったのかを考える時間としたい。

授業デザインの具体的な取組二つ目との関連から、子どもたちなりに「よい俳句とは何か」を考えられるように、句会の終わりに上位に選んだ俳句の共通点を考える時間を設定する。自分の表現を吟味したり、友達の俳句を批評したりする指標として、表現技法だけにこだわらない3Aならではの評価規準をつくっていくことを目指し、句会が終わるごとに上位になった俳句の共通点を考える時間を設定する。春夏秋冬と季節が進むにつれて、より洗練された俳句を詠むことができるようにしたい。また、春夏秋冬と季節が進むにつれて使用できる季語や言葉に制限を設けることで、子どもたちなりに自分の伝えたいことがより伝わるように表現を吟味する姿を目指す。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

(1) 俳句について、使われている表現から想像を膨らませて味わうことができる。

〈C-44・73〉

(2) 自分の伝えたいことがより伝わるように表現を吟味することができる。

〈B-39〉

(3) 言葉に着目し、表現を吟味して俳句を詠んだり、情景を思い浮かべながら俳句を味わったりしようとする。

〈エ〉

4 単元の構想（総時数12時間）

きせつのことば（2年）
季節を感じる言葉を使って、そのときに感じた思いを文章に書く。

本単元

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
1 (四月)	(1) 春の俳句を詠む。 ・俳句って何だろう。 ・五・七・五に合わせるのは難しいな。	・自分の思いを俳句に表すことができるように、生活の中で見つけた春らしいものや春らしいことについて交流する場を設定する。	・自分の伝えたいことがより伝わるように表現を吟味することができる。(B-39、エ)
2 ・ 3 (五月)	(2) 春の句会を開く。 ・〇番の俳句が気に入ったな。 ・この俳句は様子が思い浮かぶな。	・表現のよさについて建設的に話し合うことができるようにするために、句会のルールを確かめる。	・俳句に使われている表現から想像を膨らませて、俳句を味わうことができる。(C-44・73、エ)
4 (八月)	(3) 夏の俳句を詠む。 ・春の俳句でいいなと思ったところを参考にしよう。	・春の句会の際に感じた俳句のよさを取り入れて俳句を詠むことができるように、子どもたちが見つけた俳句のよさを取り上げる場を設定する。	・自分の伝えたいことがより伝わるように表現を吟味することができる。(B-39、エ)
5 ・ 6 (九月)	(4) 夏の句会を開く。 ・この俳句はリズムがいいな。 ・この俳句のよいところはどこだろう。	・話合いの視点を明確にして話し合うことができるように、前時までに見つけた「よい俳句」について振り返る場を設定する。	・俳句に使われている表現から想像を膨らませて、俳句を味わうことができる。(C-44・73、エ)
7 (十一月)	(5) 秋の俳句を詠む。 ・秋を感じた瞬間はいつだったかな。 ・寒くなってきたときのことを詠もうかな。	・自分の感じた秋を俳句に表すことができるように、生活の中で感じた秋らしさやそのときの感情を日頃から日記に書きためるようにする。	・自分の伝えたいことがより伝わるように表現を吟味することができる。(B-39、エ)
8 ・ 9 (十二月)	(6) 秋の句会を開く。 ・どっちの俳句の方がよりよいかな。 ・何を基準に選んだらいいかな。	・活発に意見交換することができるように、メンバーの構成を考えてグループピングを行う。 ・話合いの視点を明確にするように、前時までに見つけた「よい俳句」について振り返る場を設定する。	・俳句に使われている表現から想像を膨らませて、俳句を味わうことができる。(C-44・73)
10 (一月)	(7) 冬の俳句を詠む。 ・使える季語が少ないと難しいな。	・より洗練された俳句を詠むことができるように、感情の表し方や使う季語に制限を設ける。	・自分の伝えたいことがより伝わるように表現を吟味することができる。(B-39、エ)
11 ・ 12	(8) 冬の句会を開く。 ・同じ季語を使っても、こんなに違う俳句ができるんだ。 ・この俳句は「よい俳句」の視点のこれに当てはまるね。	・活発に意見交換することができるように、メンバーの構成を考えてグループピングを行う。 ・話合いの視点を明確にして話し合うことができるように、前時までに見つけた「よい俳句」について振り返る場を設定する。	・俳句に使われている表現から想像を膨らませて、俳句を味わうことができる。(C-44・73、エ)

◎本単元で育む主な資質・能力

表現を吟味して俳句を詠んだり、使われている表現から想像を膨らませて俳句を味わったりすることができる。(B-39、C-44・73、エ)

きせつのことば（4年）

その季節ならではの行事の様子を表す手紙を書く。

5 本時の実際（9 / 12）

- (1) ねらい 感情の表現の仕方や季節の切り取り方に着目し、俳句を批評する活動を通して、俳句に使われている表現から想像を膨らませて俳句を味わったり、気に入った理由を友達に伝えたりすることができる。〈C-44・73〉

(2) 展開

○自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動	教師の支援 評 価
5分	① これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。 めあて _____ おすすめの秋の俳句をしようかいしよう。	・視点を明確にして話し合うことができるように、今までの学習で見付けた「よい俳句」の条件（リズムがよい、音を感じる、一瞬のことなど）を確かめる。
25分	② 句会を開く。 (グループ→全体) 〈予想される子どもの反応〉 【友達の作品のよさを伝えることができている】 ○①番の俳句が様子が思い浮かびやすいな。 ○他の俳句にはないこの俳句のよさはなんだろう。 ○様子が思い浮かぶのはどの俳句も同じだね。 ○どれも他の俳句と同じようなことになっちゃうな。 【友達の作品のよさを見つけられていない、よさを伝えることができている】 △何となく③番が好きだな。	・話し合いを活発に行うことができるように、気に入った俳句が異なる子ども同士でグルーピングをする。 ○考えを広げたり、深めたりすることができるように、友達の発表に対して、付け足しや質問はないかを問う。 ・その句を選んだ理由をうまく説明できない子どもには、「よい俳句」の条件を使って話すように助言する。
5分	③ 最終投票をする。 〈予想される子どもの反応〉 【自分の考えの変化や深まりに気付いている】 ○最初は①がいいと思ったけど、友達の話を聞いているうちに、④の方がいいような気がしてきたな。 【自分の考えの変化や深まりに気付いていない】 △②が気に入ったけど、理由はうまく言えないな。	・自分の考えの変化や深まりに気付くことができるように、句会を終えた時点で一番気に入った俳句に投票する場を設定する。
10分	④ 自分の句集に入れる俳句を選び、本時の学習を振り返る。 ・今度俳句を詠むときは、①番みたいに繰り返しを使ってみたいな。 ・上手なたとえを使うと、相手により気持ちが伝わるんだな。 ・季語の選び方で印象が変わるんだな。	・本時の学びを今後の学習に生かすことができるように、本時に見付けた「よい俳句」の共通点を探す時間を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;">感情の表現の仕方や季節の切り取り方に着目し、友達の作品に触れたりよさを見つけたりする活動を通して、具体的な情景を想像しながら俳句を味わったり気に入った理由を友達に伝えたりしている。 〈C-44・73〉（発言・句集）</div>

令和7年度 国語科実践・研究計画

部 員 ○工藤優花、鎌田佳佑、小室真紀

1 昨年度の成果と課題

昨年度の実践から、本校の国語科教育における自律した学習者の具体が見えてきた。

- ① 1年「オリジナルじどう車カードゲームであそぼう～じどう車しらべ～」の実践では、教材文を読み進めていくうちに、ある子どもから「自分が好きな自動車のことを調べたい」という声が上がった。この発言から、「好きな自動車のカードを作り、そのつくりとはたらきを並べて説明するゲームで遊ぶ」という学習のめあてが生まれた。

救急車を選んで調べた子どもは、はじめは明確な基準を設けずに並べていたが、ゲームによって友達との交流を行う中で、「その車が仕事をするのにより必要なつくりから順番に並べると説明がよく伝わる」ということを理解し、筆者の文章構成の意図を考えている姿が見られた。子どもたちにとって関心が高いカードゲームを言語活動に設定したことで、意欲をもって学習に取り組める場を設けることができたと考える。

子どもたちの活動に対する意欲を支えていたのは、「選んだ題材を追究することができ、成果物で遊びながら交流できること」という目的意識であったと考えられる。

- ② 5年「見つめよう 物語の中の『友達』」の実践で「にじの見える橋」を読んだ子どもは、「自分も友達や家族との関係がうまくいかず、もやもやしたことがあって、主人公の気持ちがわかる」と感想を述べ、人間関係に思い悩んだ時の自分の心情と、主人公の心情を重ねていた。登場人物の心情を自分なりに解釈し、本文の叙述を何度も読み返しながら、その根拠を一生懸命に探そうとしていた。

この単元では、子どもたちに「友達との出会い」や「すれ違い」をテーマとして集めた5つの物語文を提示した。その後、「心に残った物語を1つ選び、本文中に描かれていない登場人物の心情が分かるように物語をリライトする」という活動を行った。物語をリライトする場面では、共感を覚えた登場人物になり切りつつ、本文から読み取った登場人物の心情をありありと描き出そうとしている姿が見られた。

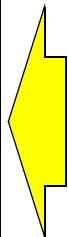
一方、本文をあまり読み返さずに、初めに読んだ時点の解釈で満足しているような子どもの姿も見られた。自身の解釈にこだわりをもち、さらに深く吟味していけるような場を設けられるようにしていきたい。

- ③ 6年「書きたい世界が広がる『作家の時間』」の実践では、説明文を書き進めているA児が、自分の作文を紹介しながら「逆接が3回並ぶのは変じゃないだろうか」と学級全体に悩みを投げかけた。様々な代案が挙がり、小グループに分かれてそれぞれの案を試していると、B児が「この文章では、逆接の後の文を強調したいんだよね。こんな表現に変えたらどう」と、代案を示した。他の子どもから拍手が起こる中、A児は「言いたいのは、確かに逆接の後なんだよなあ」とつぶやいた。後日A児は、B児の案を受け入れたことを学級のみんなに伝えた。二人のやりとりをきっかけに、他の子どもたちは、「接続語によって、読み手が受ける印象が異なる」、「書き手でありつつ、読み手としても文を見直す必要がある」ということを感じた様子だった。

「他の表現はないだろうか」と反芻する問いかけや、友達からの問いかけ、友達とのやりとりから浮かび上がる自分への問いかけのように、それぞれの子どもたちに小さな問いかけが重なっていく場面があったことが、気づきを生み出し、書きながら何度も考え、再び考え直す創造的な学びの土台をつくることにつながっていたと考える。

2 国語科における自律した学習者の姿

- ① 自分に適した学びの道筋を選択し、進んで学びに向かいながら、言葉の力を高めている姿
② 根拠を基に自らの解釈や表現を吟味し、よりよいものにしていく姿
③ 問いの積み重ねを基に、言葉に関する選択・決定を省察する姿



3 授業デザインの具体的な取組

- 個々の子どもに応じた学習材の提示や学習展開の工夫ができるように、授業の内外で子どもの姿を的確に見取る。
○自らの解釈や表現に対して、その解釈・表現に至った根拠をもって学びに向かうことができるような学習活動の工夫をする。
○自身の振り返りや、仲間と関わって得たことを基に、自分の考えはどのように変わったのか、問い直す場を設ける。

令和7年度「国語科の資質・能力」表

※□は、資質・能力の取り扱い学年、■は、定着学年を示す。

内容			学習指導要領との関連内容			1年	2年	3年	4年	5年	6年
			1・2年	3・4年	5・6年						
国語科の学びに向かう力、人間性等	ア	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、国語を尊重しようとする。	全般	全般	全般	■	■	■	■	■	■
	イ	よりよい話し方、聞き方を意識して、進んで話したり聞いたりしようとする。	A	A	A	■	■	■	■	■	■
	ウ	自分の思いを書いて伝えることのよさを見付けたり楽しさを感じたりしながら、進んで書こうとする。	B	B	B	■	■	■	■	■	■
	エ	書かれている事柄の順序や文章の構成、場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりして読もうとしている。	C	C	C	■	■	■	■	■	■
	オ	表現したり理解したりするために、必要な語句を進んで増やそうとする。	全般	全般	全般	■	■	■	■	■	■

国語科の各領域の付けたい力 A話すこと・聞くこと	1	場に応じて、適切な声量や速さで、はっきりとした発音で話す。	A(1)ウ	A(1)ウ	A(1)ウ	■	■	■	■	■	■
	2	結論を先に、理由を後につけて発言する。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	■	■	■	■	■
	3	身近な出来事について、適切な長さでスピーチをする。	A(1)ア	A(1)ア	A(1)ア	□	■	■	■	■	■
	4	相手との関係や、その場の状況に応じた言葉遣いで話す。	A(1)ウ、知(1)キ	A(1)ウ、知(1)キ	A(1)ウ、知(1)キ	□	□	□	■	■	■
	5	頷きや眼差しなどで相手に反応を示しながら聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	■	■	■	■	■	■
	6	話の内容を落とさず、間違いなく聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	□	■	■	■	■
	7	話の中心点を理解して聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	□	■	■	■	■
	8	身近なことや、自分が経験したこと、観察したことなどの中から話題を決める。	A(1)ア	A(1)ア	A(1)ア	□	■	■	■	■	■
	9	日常生活の中で考えたことや特に伝えたいと思うことなどから話題を決める。		A(1)ア	A(1)ア			□	■	■	■
	10	学校や家庭、地域のことなどで興味や関心をもっている事柄を想起し、一つの話題に絞る。			A(1)ア					□	■
	11	話すために必要な事柄を思い出して書き出す。	A(1)ア	A(1)ア	A(1)ア	□	■	■	■	■	■
	12	本や文章を読む、人に聞く、図表や絵、写真などを見るなどの方法から選択し、調べたことの要点をメモする。		A(1)ア	A(1)ア			□	■	■	■
	13	取材した内容を比較したり、関連のあることをまとめたり、分類したりして、自分の考えに生かす。			A(1)ア					□	■
	14	相手の話に対する賛否を明確に表す。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	■	■	■	■	■	■
	15	相手の話に口を挟まずに聞く。	A(1)エ	A(1)エ、知(1)イ	A(1)エ、知(1)イ	■	■	■	■	■	■
	16	丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話す。	知(1)キ	知(1)キ	知(1)キ	□	■	■	■	■	■
	17	起こった事柄の順序にしたがって話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	■	■	■	■	■
	18	分かったこと、考えたことについて、筋道を立てて話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	□	■	■	■	■
	19	大事な事柄から話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	□	■	■	■	■
	20	聞き逃したことを問い返したり、不明確な点や確かめたいことを問いただしたりする。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	■	■	■	■	■
	21	図表や映像を提示したり、身振りや手振りで内容を補ったりして話す。	A(1)ウ	A(1)ウ	A(1)ウ	□	□	■	■	■	■
	22	複数の事柄を比較しながら聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	□	■	■	■	■
	23	必要な情報を選んで聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ		□	■	■	■	■
	24	話し合ったことを基に、自分の問題意識を深めたり、焦点化したりする。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	□	□	■	■	■	■
	25	聞いたことを正確に再現して話す。	A(1)アイ	A(1)アイ	A(1)アイ	□	□	□	■	■	■

	26	伝えたい内容や気持ち、その場の状況に合わせて、大事な言葉を強調したり繰り返したりするなど工夫して話す。	A(1)イウ	A(1)イウ	A(1)イウ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	27	尋ねたいことを見付けて質問したり、質問に答えたりする。	A(1)エ, オ	A(1)エ, オ	A(1)エ, オ	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	28	見聞きしたり、読んだりしたことについて、考えたことを話し合う。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	29	話題に即した話をする。	A(1)イオ	A(1)イオ	A(1)イオ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	30	話を聞きながらその内容を記号や省略、矢印などを使って工夫してメモし、相手の主張や論理を整理してとらえる。		A(1)ア	A(1)ア			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	31	定められた時間内に話す。		A(1)エ	A(1)エ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	32	問題に適した話合いの内容・方法・相手等を決める(選ぶ)。		A(1)オ	A(1)オ			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	33	内容を選び、主旨を明確にして話す。		A(1)イ	A(1)イ			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	34	相手の話を引用しながら話す。		A(1)イ	A(1)イ			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	35	資料や事実に基づいて、具体的に話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	36	メモを基にして話す。		A(1)イ	A(1)イ			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	37	相手や目的に応じ、筋道を立てて適切な言葉遣いで話す。		A(1)イウ, 知(1)キ	A(1)イウ, 知(1)キ			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	38	自分の立場を明確に説明したり、事実と感想、意見とを区別したり、概説したり、結論付けたりして、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫する。			A(1)イ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	39	事柄が明確に伝わるように、必要な文言や数値などを引用したり、図解したり、重要語句の定義付けをしたりするなどの工夫をする。			A(1)ウ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	40	相手の話の内容と自分の考えとの異同を確かめながら聞く。		A(1)エ	A(1)エ				<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	41	話し手の意図を推し量りながら聞く。		A(1)エ	A(1)エ			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	42	自分の考えと関連する点を探しながら話を聞く。			A(1)エ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	43	主張されていることの根拠が妥当かどうか、信憑性があるかどうか考えながら聞く。			A(1)エ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	44	聞き手の反応をうかがいながら話す。			A(1)ウ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	45	互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	46	話合いの流れを的確に把握し、臨機応変に話題を広げたり深めたりする発言をする。			A(1)オ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	47	話合いの意義や成果をまとめて話す。		A(1)イ	A(1)イ			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	48	相手の意見の不適切な点や、不備な点を指摘したり、補ったりしながら話し合う。			A(1)オ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	49	相手の反応を先取りした上で、自分の考えを話す。			A(1)ウ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	50	相手に分かりやすい順序を工夫して話す。		A(1)イ	A(1)イ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
国語科の 各領域の 付けたい力 B 書くこと	1	履修した漢字を書く。(平仮名、片仮名も意識して)	伝(1)ウ(ア) (イ)	伝(1)ウ(ア) (イ)	伝(1)ウ(ア) (イ)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	2	主述が明確な文を書く。	B(1)イ, 伝(1)イ(カ)	B(1)イ	B(1)イ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	3	原稿用紙を正しく使って文章を書く。	B(1)イ, 伝(1)イ(エ)	B(1)イ, 伝(1)イ(オ)	B(1)イ	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	4	読んだり、聞いたり、体験したりしたことの感想を、適切な長さで書く。	B(1)ウ	B(1)ウ	B(1)ウ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	5	読んだり、聞いたりした通りに正しく書き写す。	B(1)イ	B(1)イ	B(1)イ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	6	誤字・脱字に注意し、形を整えて文字を書く。	伝(1)イ(エ) (オ)	伝(1)イ(ウ) (エ)	伝(1)イ(ウ) ウ(ア)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	7	書くための素材を、五感を働かせて日常の言語生活の中から見つける。	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	8	見聞きした出来事や経験したこと、想像を膨らませて考えたことなどから書くことを決める。	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	9	書くために必要な事柄を書き出し、伝えたい内容に必要な事柄かどうかを確かめながら書く。	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	10	書くために必要な資料に見当をつけ、学習計画を立てたり見直したりする。	B(1)ア	B(1)ア	B(1)ア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	11	大事な事柄から順に、構成を工夫して書く。	B(1)イ	B(1)イ, 伝(1)イ	B(1)イ, 伝(1)イ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

	12	興味・関心のあること、経験したり人から聞いたりしたこと、本を読んで知ったことなどから自分なりに関心を深めて、書くことを決める。		B(1)ア	B(1)ア			<input type="checkbox"/>	■	■	■
	13	知識を得たり考えを深めたりするためのもの、意見の理由となるものや事例など、書くために必要なことを取材する。		B(1)ア	B(1)ア			<input type="checkbox"/>	■	■	■
	14	いくつかのことを比較したり関係付けたりしながら課題意識を明確にして書くことを決める。			B(1)ア					<input type="checkbox"/>	■
	15	情報検索したり取材したりした事柄を、文章の構成や記述に役立つように整理する。			B(1)ア					<input type="checkbox"/>	■
	16	取材したことの順序に沿いながら、「始め—中—終わり」の構成を意識して内容のまとまりごとにいくつかに分けて配列する。	B(1)イ	B(1)イ	B(1)イ	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
	17	累加や並列といった接続関係、具体的な事象と抽象的な事象、結論とその理由や根拠といった配列関係などの段落相互の関係に注意して文章を構成する。		B(1)イ、 伝(1)イ(エ)	B(1)イ			<input type="checkbox"/>	■	■	■
	18	「冒頭部—展開部—終結部」の各部分での段落の役割を意識する。		B(1)イ、 伝(1)イ(エ)	B(1)イ、 伝(1)イ(エ)			<input type="checkbox"/>	■	■	■
	19	物語や説明的な文章の典型構成を知り、それらを目的や意図に応じて効果的に用いて、自分の考え及び相手の理解が明確になるように文章を構成する。			B(1)イ、 伝(1)イ(キ)					<input type="checkbox"/>	■
	20	体験したり調べたりしたことの順序が分かるように書く。	B(1)イ	B (1) イ 伝 (1) イ	B(1)イ	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
	21	体験したときの様子や、調べた内容が分かりやすく伝わるように、五感を働かせて詳しく書く。	B(1)アイ	B (1) アイ、 伝 (1) イ	B (1) アイ、 言 (1) イ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■
	22	調べたことから大事な箇所を引用して書く。	B(1)ウ	B(1)ウ	B(1)エ		<input type="checkbox"/>	■	■	■	■
	23	読んだり聞いたりしたことについて、自分の考えをまとめて書くことにより、自分の課題意識を明確に文章にする。	B(1)イ	B(1)イウ	B(1)イウ		<input type="checkbox"/>	■	■	■	■
	24	前後の語句や文のつながりを大切にし、一文の意味が明確になるように語と語の続き方を考えて書く。	B(1)ウ	B(1)ウ	B(1)ウ	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
	25	離れたところにある語と語や文と文の関係を考えてつながりのある文章を書く。	B(1)ウ	B(1)ウ	B(1)ウ	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
	26	調べたことを要約して書く。		B (1) ア、 C (1) エ	B (1) ア、 C (1) ウ			<input type="checkbox"/>	■	■	■
	27	「なぜかというと～」「その理由は～」「～のためである」などの表現を用いて、中心の内容や段落に対して、原因や理由を挙げたり、分かりやすく説明するために事例を挙げて書く。		B(1)ウエ	B(1)ウエ			<input type="checkbox"/>	■	■	■
	28	「例えば～」「事例を挙げると～」「～などが当たる」などの表現を用いて、実例を挙げたり、具体的な本や文章、絵、写真などの事物を取り上げたりして描写や説明をする。		B(1)ウエ	B(1)ウエ			<input type="checkbox"/>	■	■	■
	29	相手や目的に応じて、敬体と常体を意識的に使い分けたり、「～だ」「～である」「です」「ます」などの文末表現に気を付けて書く。		B(1)エ	B(1)ウエ			<input type="checkbox"/>	■	■	■
	30	伝えたいことが分かるように、何かに例えたり、具体的事例を挙げたりして書く。	B(1)ウ	B(1)ウエ	B(1)ウエ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■
	31	事実と意見、原因と結果を明確にして論理的な文章を書く。		B(1)ウエ	B(1)ウエ			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■
	32	図表やグラフ、写真等を用いて、自分の文章を補足しながら書く。			B(1)ウエ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■
	33	「事実」(出来事や科学的な事実、物語で描写されるフィクションの世界など)と自分の感想、意見を区別し、目的や意図に応じて詳しく書いたり簡単に書いたりする。			B(1)ウエ					<input type="checkbox"/>	■
	34	自分の考えを根拠付けたり、具体的な例を示したりする際に、本や文章から必要な語句や文を引用して自分の表現に取り入れる。			B(1)ウエ					<input type="checkbox"/>	■
	35	自分の文章を読み返したり、友達の文章を読んだりすることによって、自分の文章を推敲する。	B(1)エ	B(1)オ	B(1)エ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■	■
	36	数量や規模を明示したり、重要な言葉を引用したりしながら、説得力のある文章を書く。		B(1)アイ	B(1)アイ エ			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■
	37	自分や友達の学びの成果が、次の学習に生かされるように、視点を明確にした具体的なふり返りを書く。	B(1)エ	B(1)オ	B(1)オ		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■
	38	自分の気持ちがよりよく伝わるように、適切な内容及び言葉(敬語・時候の挨拶など)を選んで手紙やメッセージを書く。	B (1) ア、 伝 (1) イ	B (1) アウエ、 伝 (1)	B (1) アウ、 伝 (1) イ		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■
	39	自分の考えを伝えるのに最も適した語句や文種、表現技法を選択し、その特長を生かしながら書く。		B(1)ア	B (1) ア、 伝 (1) イ			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■
	40	書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合う。	B(1)オ	B(1)カ	B(1)カ	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
	41	書いたものを読み合ったり音読し合ったりして発表し合い、考えの明確さや書き方の巧みさなどについて意見を述べ合う。		B(1)カ	B(1)カ			<input type="checkbox"/>	■	■	■
	42	書いたものを発表し合って交流し自分の考えをもつとともに、書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する。			B(1)カ					<input type="checkbox"/>	■
国語科の 各領域の 付けたい力 C 読むこと	1	スラスラと適切な速さと声量で音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	■	■	■	■	■	■
	2	当該学年までの履修済みの漢字をすべて読む。	知(1)エ	知(1)エ	知(1)エ	■	■	■	■	■	■
	3	書かれてある事柄の順序が分かる。	C(1)ア			■	■	■	■	■	■
	4	週に1冊は読書をする習慣を身に付ける。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■
	5	言葉の意味を辞書で調べ、文脈に即して理解する。		知(2)イ	知(2)イ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■	■
	6	文章中の言葉を根拠にしながら、人物の行動の様子やその意味を考えたり、気持ちを想像したりする。	C(1)エ	C (1)エ	C(1)エ	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
	7	明瞭な発音で音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	■	■	■	■	■	■

	8	ひとまとまりの語や文として音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	■	■	■	■	■	■
	9	言葉の響きやリズムなどに注意して音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	□	■	■	■	■	■
	10	強弱や間の取り方、抑揚の付け方などに注意して、読み取ったことがよりよく伝わるように音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	□	□	■	■	■	■
	11	文章全体の内容や構成からその中心を把握し、軽重や速さなどを考えて音読する。		知(1)ク	知(1)ク			□	■	■	■
	12	七音五音を中心としたリズムから国語の美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりする。	知(3)ア	知(3)ア	知(3)ア	□	□	□	■	■	■
	13	語り手や登場人物の人物像をとらえ、どのように語りたいかを決め、声の大きさ、声の質や速さ、間の取り方などに気を付けて音読する。		知(1)ク	知(1)ク				□	■	■
	14	文章全体に対する思いや考えをまとめ、そのことを相手に分かってもらえるように表現性を高めて朗読する。			知(1)ク					□	■
	15	目的に応じて、「比べ読み」「速読」「摘読」「多読」など多様な読み方を選択し、活用する。			知(1)ク					□	■
	16	書かれている事柄の違いを比較することで、その意味が分かる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
	17	説明されている事柄の位置関係や構造を、図示したりしながら正確に理解する。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
	18	事柄の原因と結果の関係が分かる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
	19	話の筋や論理の展開が分かる。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	□	■	■	■	■	■
	20	書かれていることの特異性と一般性、具体性と抽象性の類別をして、文章の構造や内容を理解する。		C(1)ウ	C(1)ウ		□	□	■	■	■
	21	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら文章の大体を読む。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
	22	「問い」と「答え」という基本構成をとらえ、「問い」に対する「答え」を読み取る。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	■	■	■	■	■	■
	23	「始め」「中」「終わり」の文章構成をとらえ、中心となる文を手がかりに要点をまとめる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア		□	□	■	■	■
	24	「序論」「本論」「結論」の三部構成をとらえ、中心となる段落を手がかりに文章の要旨をとらえる。		C(1)ア	C(1)ア				□	□	■
	25	累加や並列といった接続関係、具体的な事象と抽象的な事象、結論とその理由や根拠といった配列関係などの段落相互の関係をとらえながら読む。		C(1)ア	C(1)ア			□	■	■	■
	26	中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりする。		C(1)ウ	C(1)ウ			□	■	■	■
	27	筆者がどのような事実を原因や理由として挙げ、それについてどのような考えや意見を述べようとしているかをとらえる。		C(1)アウ	C(1)アウ			□	■	■	■
	28	事実を説明している言葉の指し示す範囲に揺れがないかどうか考える。		C(1)アウ	C(1)アウ				□	□	■
	29	文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方、巧みな叙述などに注意して、求められている分量や表現の仕方に合わせて要旨をとらえる。			C(1)ア					□	■
	30	筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の知識や経験、考えたことと関係付け、自分の考えを明確にしながら読む。			C(1)アオ					□	■
	31	文章構成を区分することによって、文章の要旨や主題を的確にとらえる。		C(1)アウ	C(1)アウ			□	■	■	■
	32	図表や、絵、写真等が、どのように文章を補っているかを考えながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ			□	□	■	■
	33	筆者の書き方の工夫やよい点・不十分な点を考えながら読む。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	□	□	□	□	■	■
	34	筆者の主張の根拠が適切かどうか考えながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ				□	□	■
	35	結論と具体的事例の整合性を判断しながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ				□	□	■
	36	筆者の推論や解釈、例示などの妥当性を吟味しながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ				□	□	□
	37	物語に共感し、書かれていることの真偽や善悪、美醜、有用・無用の判断をしながら読む。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	■	■	■	■	■	■
	38	事柄や人物の設定(誰が・いつ・どこで・何をした)が分かる。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	■	■	■	■	■	■
	39	物語の展開に即して各場面の様子が変化したり、中心となる登場人物の行動が変化したりしていくことを把握し、その様子を想像しながら読む。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	□	■	■	■	■	■
	40	登場人物の行動や会話に即しながら、それぞれの登場人物の性格を押さえ、それらの人物像を読む。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ	□	□	□	■	■	■
	41	人物描写の特徴から、その人物のものの見方や考え方の特徴や言動の変化の意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ		□	□	■	■	■
	42	物語のクライマックスを見つけ、そこで起きている出来事から分かる強調点や変化の意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ	□	□	□	■	■	■
	43	各場面の様子に気を付けながら場面と場面を関係付けて読む。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ		□	□	■	■	■
	44	物語や詩の描写を、想像力を働かせながら読む。		C(1)エ	C(1)エ			□	■	■	■
	45	書かれていることを基に問いをつくり、答えを仮定したり根拠となる言葉を探したりする。		C(1)イエ	C(1)イエ		□	□	■	■	■

46	題名や見出しから、文章の要旨や主題を推察する。		C(1)イエ	(1)イエ			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■
47	情景描写の特徴から、作品主題との関連や人物のものの見方や考え方のありようを考える。		C(1)イエ	C(1)イエ			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■
48	一つ一つの事件・出来事の関連性から見出される意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■
49	ストーリーの展開に気を付け、描写の特徴や言葉の象徴性など、読み取ったことがより豊かに伝わるように朗読する。		知(1)ク	知(1)ク				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■
50	登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている心情を読む。			C(1)エ					<input type="checkbox"/>	■
51	句読点の打ち方の違いで文意が異なることが分かる。	知(1)ウ	知(1)ウ	知(1)ウ	■	■	■	■	■	■
52	反復が強調している事柄の意味が分かる。			知(1)ク	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
53	助詞や助動詞の違いで文意が異なることが分かる。	知(1)ウ	知(1)ウ	知(1)ウ	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
54	指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割が分かる。	知(1)カ	知(1)カ	知(1)カ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■
55	文末表現によって文の意味合いが変わってくることが分かる。	C(1)イウ	C(1)イウ	C(1)イウ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■	■
56	漢字・ひらがな・カタカナなどの表記の違いによって、多義的になったり、意味が限定されたりすることに気付く。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)オ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■
57	オノマトペ(擬声語・擬態語等)の表現によって強調される意味・内容があることが分かる。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)オ	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
58	比喩表現(直喩・隠喩・擬人法等)によって強調されている意味・内容があることが分かる。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)ク		■	■	■	■	■
59	省略、倒置、対句など、構成上の表現の工夫によって強調される意味・内容があることが分かる。			知(1)ク			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■
60	使われている語彙・表現の多義性や象徴性を考える。			知(1)オ					<input type="checkbox"/>	■
61	象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容などに気付き、それらを評価したり、自分の表現に生かしたりする。			C(1)オ					<input type="checkbox"/>	■
62	自分の思いや考えをもつことに強く影響した言葉や文を適切に書き抜く。	C(1)オ	C(1)オ	C(1)オ	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
63	自分の考えをまとめるために、文章の要点や細かい点に注意して読み、引用したり要約したりする。		C(1)ウ	C(1)ウ			<input type="checkbox"/>	■	■	■
64	感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して、自分の考えを感想文や解説文などにまとめる。			C(1)カ					<input type="checkbox"/>	■
65	文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ発表し合い、交流する。(劇、話し言葉による発表・交流、書き言葉で表したものを読み合う)	C(1)オ	C(1)オ	C(1)オ	■	■	■	■	■	■
66	楽しんだり知識を得たりするために本や文章を選んで読む。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	■	■	■	■	■	■
67	身近な生活や自身の問題意識に基づいて選択する図書の分野を広げ、進んで読書しようとする。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■
68	複数の読み物の内容から、共通点や違いを見つけながら読む。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■
69	筆者や作者、ジャンルなどの関連を意識して、読書の幅を広げ、進んで読書しようとする。		知(3)エ	知(3)エ			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■	■
70	同じ課題について違う筆者が執筆した本や文章、同じ筆者の複数の本や文章を選んで、読み比べる。			知(3)エ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■
71	見出し・記事・写真の一貫性や「逆三角形の構成」など、編集の仕方や記事の書き方などに注意して新聞を読む。		C(1)ア	C(1)ア				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	■
72	昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。	知(3)ア	知(3)ア	知(3)ア	<input type="checkbox"/>	■	■	■	■	■
73	優しい文語調の短歌・俳句について情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする。		知(3)ア	知(3)ア			<input type="checkbox"/>	■	■	■
74	ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知る。		知(3)イ	知(3)イ			<input type="checkbox"/>	■	■	■
75	親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読する。			知(3)アイ					<input type="checkbox"/>	■
76	古典の解釈文を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。			知(3)イ					<input type="checkbox"/>	■

＜国語科の学びを支える「見方・考え方」＞

a 自分が伝えようとしている内容と言葉の関係に着目し、最も適した語句や表現技法を選び、その特長を活かして表現する。

b 語句の関係や表現技法の差異に着目し、文や文章表現の意味を豊かに、かつ具体的に理解する。

＜領域の学びを深める「見方・考え方」＞

話すこと c 音声の使い方、言葉や文末表現、表情などに着目して、その場に最も適切な表現を考える。

聞くこと d 相手の伝えようとする話の内容に着目して、自分の考えと比べるなどして共通点や相違点、関連などを整理しながら考えをまとめる。

書くこと e 目的や意図に応じた表現や文章構成になっているか、読み手の立場から、相手が読んで理解しやすいか考える。

読むこと f 構成や叙述に着目し、言葉や文を関係付けながら読む。